

地方通信



東北方面

破損甚だしい赤井道路

宮城縣桃生郡赤井村を縦貫する府縣道は先年志田郡鹿島臺を起點とするいはゆる矢本代議士獨創にかかる「矢本道路」の開鑿によつて同方面より石巻町に往復する里程を極端に短縮され交通面目を大いに改善されたとはいへ赤井道路の改修に關しては兎角等閑視勝ちなため冬季に入つてから破損移しく昨今米穀出廻り旺盛期となり荷馬

車、自動車の交通に支障を來し毎日のやうに泥海道路に悩まされてゐるので一般村民も漸く自覺し道路と産業の關係につき目下調査研究中だが道路さへ完全なれば一臺の荷馬車へ玄米二十四五俵積載運搬が出來得るに昨今辛ふじて七俵位に減じなければ運搬されねから農家經濟にも多大の悪影響あるといふのでこの際石にかかりついで改修の目的を達しなければならぬと多年行き惱みのまゝに放置された同道路も漸く本氣になつて改修を叫ばれ關係村民も應分の犠牲はいさぎよく拂ふことになつた。

モダン道路泣く

鋪装工事成った宮城縣古川町の道路がとすれば塵芥の巷と化し糞便の汚道となる

道路新設に七分負擔

仙臺東線北仙臺愛子兩驛間に設置する落合驛については關係地方民の熱望を容れ同地方民自ら同驛より廣瀬川を横断し縣道に連絡する道路を新設しその橋梁を架設することに當局においては大體承認を與へてゐたがその後關係地方においては右の經費約一萬圓の捻出に行詰りを來しこのまゝでは開業期までには到底間に合せ得ないといつて開業後の設置はなほ更困難であることに氣附いたので地元大澤村では一月二十日村會を開會し總經費の七分を負擔し殘る三分は縣の補助を得ることに議決の上直に新道路の開鑿及び橋梁築設工事を請負に附して右開通前に工事を完成させることとした。

ので折角のアスファルトのモダン道路も臺なしとなり外來者に非常に不快の念を抱かしらる事で憂ふる了當局は大、これ

事費は一萬二千圓で兩側は歩道二間宛とし
中央車道八間とするもので右工費の中四分
の一の三千圓は石巻町負擔し縣直管で工事
に着手する豫定であると同寺に當參を

修路工夫を優遇して改善せ
むとする土木工區の試み

憂慮し種々考慮中だがそれはゴミ箱の設置等と共同便所の設置が足りない結果で殊に共同便所の如きは仙北一の大古川町にたつた二つしか設けてない有様で自然道路に糞便を放泄することは如何とも仕方がない町當局は種々善後策について腐心してあるが最近掃除茅芥運搬の自動車を設けるべく町は志は色々計畫してゐるが共同便所の増設と共に古川町美化の重大問題となつてゐる。

事費は一萬二千圓で兩側は歩道二間宛とし
中央車道八間とするもので右工費の中四分
の一の三千圓は石巻町負擔し縣直營で工事
に着手する豫定であるこれと同時に當然多年
の立案である立町道路の擴張整理を斷行
することになるであろう。大體において昨
年中に交渉した通り工費八萬圓の中關係民
より二萬圓の寄附を得て弓形の同道路を五
間巾に一直線に一丁目より三丁目まで擴張
するもので水道敷設着手を控へてから計
畫だけは立てゝ置く必要がある。町當局で
は、卷返しのやうだが各地主に對し交渉を

道路管理上其の根柢をなし最も重要な修路工夫の能率を増進せしめるには工夫の人格を向上させ責任觀念を涵養せしめるの必要があるとて義に羽尻工區所長就任早々御大典記念事業として地方有志の援助を乞ひ同所管内修路工夫三十四名を會員とし相互の扶助智識の向上慰安獎勵等を目的とする親工會なるものを組織し取扱えず、勤續者の表彰慰安會等の方法に依り會員の獎勵に努力し、會員間では未だ各地に類例のない

宮城縣石巻町主要道路の鋪装工事については二三年前からの懸案であつたが幾多の事情で今日まで中断されてゐたが宇和野町長が上仙縣當局と折衝の結果先づ停車場前道路を本年度事業として計畫する事になり過般川越土木課長が來石し實地観察した工

石卷主要道路鋪裝工事

は、巻返しのやうなが名地主に對し交渉をすゝめ四年度事業として是非實現を期したいと意氣込んでたり、將來停車場前通りのみを鋪装しただけでは何等意義を爲さないし、都市計畫の上からも不都合であるからこの際至急に擴張事業を行ふことにならう。

新工會なるものを組織し取組えず、董総裁の表彰慰安會等の方法に依り會員の獎勵に努力し、會員間では未だ各地に類例のない會の設立に感じ自發的に修路の實を擧げ關係地方の賞讃を博してゐるが、昨年末修路工夫の年末賞與が縣豫算の關係上例年に比べて少額だった處羽尾同會長は之を憂撫のため、めりや、すしやつ上下一組づゝを會員へ贈り會員一同は氏の温情に感激し死力

を竭しても職に奉仕せんことを誓つて、感謝の状を寄するものが多いとの事で之を聞いた地方の有志等も同工區の措置の機宜に適した行爲を賞讃し特に同會に寄附を申込む篤志者も少くないとの事である。

榮町東新町間車道の鋪装

名古屋市廣小路線榮町東新町間の車道鋪装工事は御大典終了後十二月早々始る豫定であつたが、師走から年始にかけて入出の盛んな時に工事をされれば、商賣が出来ぬと關係住民から陳情があり又工事上に於ても能率をあげられぬといふので、一時工事を中止して居るが近く請負者を決定して三月早々着工せしめ、五月一杯には完成させることになつた、尙道路課では引續き四年度に於ても鋪装工事を行ふ方針の下に大津町線上前津榮町間公園線公園水主町間が工費五十四萬圓を要求してゐるが財政逼迫の折柄とて大岩市長は極力緊縮主義をとつて

あるため、道路課要求の鋪装費全部は容れられず結局三年度鋪装費より少し増額して四十萬圓内外に決定する模様である。

貨物運搬の補助道路

名古屋市では、名古屋新貨物驛の竣工後於ける貨物の市内運搬を圓滑ならしめるため中區南大津町伊藤銀行南より眞直に西へ明治橋に至る幅員六間の補助道路を昭和三年度以降七ヶ年繼續事業として、新設する事になり、これが起債案五百四十二萬圓を昨年六月縣に提出したが縣では五百萬圓からの大計畫であるからとて大事をとり、今なほ慎重に調査を進めて居る市では既に名古屋新貨物驛も竣工して近く貨物取扱ひを開始する事とて一日も早く着工する必要があるのに氣をもみ近く縣に向つて督促する事になつた。

豊橋私道を

公道に編入したい

豊橋市内の私道整理に就いては、過般來田部井市長より各町總代に夫れ夫れ依頼したるものも却々多い而して、私道は其所有者が事實上交通に供して居るに不拘地租其他の負擔を受ける不合理もあり又是れ等の私道に對しては水道の配水管を敷設しないので私道に面した家屋所有者は公道から引用する工事費を負擔しなければならぬ又市街建築物法では私道に對し家屋の新築改築及び修繕を許可しないので、其家屋は自然建築に委せる事となるから、市當局では此の際努めて是れ等の私道を公道に編入するやう獎勵の方策をとつてゐる。

岡崎國道の促進運動

岡崎市國道沿線關係十三ヶ町總代は國道の改良工事速成を期するため、豫て此これが良策について腐心してゐたところであるが、愈々國道改良工事速成同盟會を組織して縣當局並に市當局を鞭撻督勵して完成促進を圖ることとなつた、これが準備として過般十三ヶ町總代の名を以て沿道市民外全市民に對し檄を飛ばして、入會勸誘を試みたが

二月二日市公會堂に於て設立協議會を開催し、具體的の運動方法を講ずる等である。即ち會長副會長委員を設けて今後の運動に處すると共に當日は速成に對する決議をも

行ふ筈であるが、同會を設立するに至つた

原因は大體同國道は大正十二年度に改修を決議し十三年度より三ヶ年間を以て完成せしむることとなつてゐたのが、加藤高明内

閣のとき緊縮政策をとり、國庫の支出を制

北越方面

卷道路新開反對運動

限した爲め縣當局に於ても最初の計畫を變更し五ヶ年完成となすことになり而も此計

書たる五ヶ年を経過せる、今日猶僅に一部

新潟縣西蒲原郡巻町より加茂方面に通する縣道加茂線の一部改修決定を機會とし、

縣道改修と松代の内紛

新潟縣十日町より東頸城郡松代村に至る

新道路開鑿に反対し飽き現在の加茂線を一部改修の上存置する決心の下に區民は結束し利害を等しうする驛前通町渡場町神明町と提携の上猛運動を起し極力目的の貫徹を期することに決定した。

シ谷區民にして、彼等は外洋に係る重大問題なりと之が對策協定の爲一月下旬區民總會を開催した出席區民五十餘名にして、佐藤區長は本問題の經過を詳細に報告し終つて同氏議長の下に協議を進めたが、結局

此機會に卷地内大曲より現在の路線を廢し直線に越後線を超え北折して停車場前県道に接續し上町新公園附近に到達せしむる新道を開鑿せんと其筋に運動を開始したりとの風評は現今専ら行はれてゐるが、右改修実現の曉に於て最も打撃を受くるのは卷四

の假工事を終つたのみで、何等交通上に便するところがない然るに幸ひ縣當局に於て

ら恵まれなかつた。自町の繁榮を圖るべく此機會に巻内大曲より現在の路線を廢し直線に改修を逐次行ひて停車場有料車両

縣道改修の件は數年前より地元民の熱望もあつて、縣もまたその必要なるを認め改修する事となつて居るが、松代村にあつては之が改修に伴ひ百年の大計を樹て根本的に山の峰傳ひに開鑿せんとする一派と現在の道路を取捨げる位の程度に止めんとする一派が互に譲らず、昨年表面は縣の意見に任せることに妥協したが裏面は依然策動を續けて居るため迷惑を蒙つて居るは十日町方面の人々で何れに軍配はあがらうとも速かに工事に着手して貰ひたいと土木課長の來巡を機会に町長、商業會關係者等から陳情するところがあつた。

近畿方面

六阪都計橋

軌道、高速車道、並樹緩速車道、歩道、そ

の下に地下鐵道、大阪市が自慢の大廣路、

(橋面積九三〇坪) 千圓

淀屋橋 はその長さ五十三米半、幅員は

二十四間幅の御堂筋は工事著々と進捗しであるが、この壯大な大廣路に一層の美觀を添ふるものは堂島川、土佐堀川及び長堀川に架けられたる大橋である、設計既に成つて地下鐵道の著工と共に工事の運びに至る大江橋と淀屋橋の姉妹橋について見る。

この兩橋は鐵筋コンクリート構の同型で市が義にその設計を一般から懸賞募集して當選した大谷君の設計圖に對し武田博士が手を加へたものでその様式は全然自由なる新鮮潔潤たるもの、唯だ細部に多少中世紀風の手法を用ゐ莊重雄大なる外觀を有し鐵筋混凝土の構造に相應しい調和性のあるものである。

大江橋 の長さは八十一米半でその幅員は主徑間(橋の中央)二十四間、側徑間(兩端)二十四間、面積九百五十一坪五匁、工費は九十三萬圓の豫定で橋面一坪當り一千圓(橋面積九三〇坪)千圓

大江橋同様で面積六百四十三坪五匁、工費豫定は六十二萬六千圓(橋面積六二六坪)一坪當りは矢張千圓である。

兩橋とも橋面の軌道は三間で、ソリテチット、兩側の高速車道三間半、同じく緩速車道二間半で何れも木塊、歩道は二間半のコンクリートタイルの鋪装である、欄干は他の意匠は全部御影石張で欄勾は青銅を配つて高尚風雅なもの、兩川の橋下普通水面十二、三尺の下層には地下鐵道が通るので水深の基礎工事は極めて大がかりのものであるが地質が甚だよいので工事は容易である、著工は地下鐵道の起債關係の爲め未定であるがこの夏頃には一部着手する豫定でその準備を進めてある、工事請負者は未だ決定してゐないが特殊工事であるから市が特に請負者を指定する筈である、兩縣ともその竣成は著工後約二年半を要する豫定で、その竣成は著工後約二年半を要する豫定で、曉は、蓋し大阪の面目を一新するものである。

六甲山ドライヴエー

工事の竣工

豫めて兵庫縣當局に於て執行中であつた六甲山ドライヴエー工事並山頂休憩所建設工事は客冬竣工したので過般盛大な竣工式を舉行した。その概要を摘記すれば左の如くである。

六甲山は極く古くは彼の山嶽佛教で有名な役の行者の一派が早くも此の六甲山に着目して此の一山を修驗者の道場とした東六甲の蜘蛛ヶ岩と謂ふ一大平盤の岩石は其の修法場であると言ひ傳へて居る。明治の代になつて神戸に居留地が出來外國人が多數居住する様になつて氷の需要が多くなるので天然氷を造つたのが此の山の氷池の始であつた。

明治二十三年國會が始めて開かれた當時神戸居留地の外人に避暑地を物色して最初は紀泉の界の彼の紀三井寺の山脈中にて物色して居たが其處は夏季蚊が多くために之が東洋一の山嶽住宅地となつた今日の盛況の基礎を築いたのである近時登山熱の旺盛となるに従つて四季を通じ登山者の數は益々多きを加へ殆に冬季は山頂に點在する池が氷結して好適のスケート場となるので其の方面の運動家も可なり多い様である。然るに之が登山道は府縣道有野御影線一筋で幅員は漸く六尺位であったから登山するにも健脚家でなければ一寸六つか敷かつたのである、そこで縣ては阪神開發事業の一として同資金を以てドライヴエーとして府縣道有野御影線の改築を企て大體至同郡同村水車新田(頂上)のルートに據つたのであるが六甲村水車新田から頂上に達する間は土地會社の開設した道路を利用した所は延長九百間餘あるが路幅、勾配、屈曲等に殆んど全區域に涉つて大改良を企て面目を新にして居るのであ

る工事の概要は左の通りであるが表道の延長は四千六百二十間餘で頂上から約二千間の區間は阪神沿岸から遠くは紀泉の海岸の風光を賞することが出来る、又裏道改修延長は二千間であつて眺望は表道の如きではないが頂上より約一千間の區域からは山嶽重疊する間に武庫川の流を望むことが出来て仲々趣がある。又頂上にはグリーム氏記念碑明治時代の六甲山の開祖の西に近世式鐵筋混凝土構造の休憩所を、又其の西と東に四阿を建設して一般登山者の自由な使用に委することになつて居る、其の構造の大要是下に掲げた通りである。

表道	自武庫郡六甲村八幡國道二號線分歧
至同郡同村水車新田(頂上)	自國道二號線
至水車道	幅六間 延長 三三、五
自水車道	幅三間 同 400、五
至阪急踏切道上	自阪急踏切道上
至水車新田入口	幅四間 同 二五、二
自水車新田入口	幅三間 同二、一、七、五
至舊會社道	幅三間 同 400、五

自舊會

至頂上

入

口

同間

分同

九〇、〇

道

同間

分同

九〇、〇

自頂上

入

口

同間

分同

九〇、〇

至紀念

帖

前

同間

分同

九〇、〇

自頂上

入

口

同間

分同

九〇、〇

自舊會
至頂上
自頂上
至紀念
右區間の最急勾配六分ノ一
最小半徑二間

工費 一五四、八六四圓〇〇
(参考) 舊道延長三、六二一間〇〇
裏道 (自有馬郡有野村 (頂上))
至同 郡同村唐堀 (府縣道神戸豊岡線分岐)
幅員二間五分一三間
延長二、〇〇〇間

露臺 參拾五坪八合一勺
建築様式 近世式
建物 高軒高地盤線より扶欄上端迄
捨七尺
構造 基礎、柱、梁、壁及屋根共總
壁面は色「モルタル」塗覆人
造石塗内部壁及天井「プラ
スター」塗仕上床「コンク
リート」打「リグノイト」
塗木部「ベンキ」塗仕上外
部に露臺及蔓欄を設く

一大產業道路完成案はいよいよ目撃がつ
き具體案も出来た、府土木部案によれば
總事業費九百十萬圓、差支へない限り昭
和四年度着手、三ヶ年繼續事業で六年度
完成。
となつてなり、大阪長柄橋から吹田までは
幅員十三間、吹田以東京都府界山崎まで幅
員十間、中央の七間を鋪装し兩側を歩道と
する豫定である、その見込み財源は左の通
りである。

沿道受益者負擔金(全額の六分の一)、
三四一、五〇〇圓、產業道路國庫補助費
二、五八六、〇〇〇圓、吹田茨木間第一次
道路改良事業による既定計畫費一、〇五
〇、〇〇〇圓、他の指定府縣道に屬する
長柄吹田間の工事剩餘金一、八九五、〇〇
〇圓、右のうち既定工事費中に計上され
た沿道受益者負擔金一八九、九〇〇圓を
差引き起債額四〇八、〇〇〇圓

右工事に要した用地及地上物件移轉に要
する費用は總て地元村に於て負擔したか
ら右に掲げた工費は工事費を意味するの
である

具體案成つた京阪間大道路

大阪府が計畫中の京阪を通ずる淀川右岸

加西那の府縣道改良

兵庫縣加西郡の本年度縣道特定改良工事

は姫路社線（延長四九八間）芳田西脇線（延長三六二間）瀬加西脇線（延長二七三間）

の三路線で目下夫々郡駐在道路技手監督の下に施工中であるが遅くも三月頃には相前後して竣工する豫定である、更に明年度に於て特定若くは臨時改良工事として略内定せる路線は左の通りである。

中村加古川線、九會村綱引より新村を経て郡界に至る延長約五百間、幅員一間半を二間半に擴張する。

瀬加北條線、西在田村荒井より下道山に至る延長約四百間、幅員一間半を三間に擴張し屈曲坂路を更正する。

瀬古西脇驛、大和村與三原より中三原の小學校附近迄延長約三百五十間で幅員一間三分を二間半に擴張する本年度の繼續事業

發展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△焼山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

中國方面

道路共進會褒賞授與式

昭和二年度廣島縣下道路共進會褒賞授與式を一月二十四日午前十一時から安藝郡海田市町郡會議室において縣土木課荒川所長

が出席開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

发展ぶりを見せ各自修養の傍ら愛郷奉仕の事業をも營んでゐるが二月一日その總會を

玖波小學校講堂で開催、會長播磨校長の開會の辭に續いて惠下町長は『新時代に處する婦人の覺悟』と題し婦人の社會における

地位と責務に關し有益な講演をなし終つて

町長を團長とする『處女會愛郷奉仕團』を組織する件を附議して異議なく可決し町有植

が出場開催したが入賞町村左の通り、△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍人分會青年團

△二等賞、△燒山、江田島、本庄村在郷軍

人分會青年團

△三等賞、上蒲刈島、矢野、熊野町戸主會

△四等賞、吳山警固屋町戸主會、矢賀

△五等賞、戸坂村戸主會、中山、奥海田、

波子島村戸主會、在郷軍人會消防組青年團、仁保、音戸町青年團、溫品村戸主會

青年在郷軍人會

赤櫻で道路改修

廣島縣佐伯郡玖波町處女會は近來著しい

道路改鑿寄附

二等 江良區△三等
一丁區余井區△四
等 片山區△五等 木々津區
齋、宮迫區ほか八區には慰労金を交付した。

久留米市豆津橋の 架替位置縣當局一任

廣島縣安佐郡可部町五丁目土井佐次郎氏は、今回宅地附近の街路から根の谷川堤防に通する道路を開鑿し、町道として可部町に寄附する旨を申出たので、同町では金五百圓の補助支出をなし後援することになつたが、一方中原村上原部落でも同額の現金ならびに人夫百五十人を寄附し、援助すると申し出た。

九州方面

自動車事故防止の爲

警戒標並方向標設置

廣島縣豊田郡本郷町では二月十日午前九時半から本郷劇場において第四回道路共進会褒賞授與式を舉行、池田町長から左記優良各區に對し褒賞状ならびに賞金を授與し、受賞者總代河原小學校長の謝辭あり本町會議員は審査員としての希望を述べ終つて祝宴を開き十時半散會した。

時等 農學校、小學校△一等 中岡區△

頃より工事にとりかかる筈である。

福岡縣では最近自動車事故の頻發するに鑑みその防止のため近く縣下各地一千箇所に警戒標並に方向標を建設して自動車運轉手は勿論一般の警戒に任することとなつたがその工費は約八千圓を要する見込みである。而してこの警戒標や方向標を設置する

場所は目下調査中であるが屈曲場所や鐵道踏切り交叉點等で事故の起る事が多いのだから自然之等の場所が主となる筈で二月末迄に調査終了、設置場所を決定し三月一日

米市の答申に基き福岡佐賀兩縣當局に一任して決定する外はあるまい。

久留米市の豆津橋架け替養寄附並に撫絲工場設置費寄附調査委員は佐賀縣廳を訪り與田土木課長と會見して意見を聽取した結果佐賀縣は十年計畫で道路橋梁等の大改革を斷行すべく既に該豫算は縣會を通過し獨り豆津橋のみならず大川町城島町に連絡すべき架橋計畫もあり豆津橋の架替位置に就いては縣當局一任になつて居るので近く關其處で久留米市調査委員會は次回久留米紺縞組合幹部と會見し撫絲工場設置に對する意見を聞き工業試驗場の調査を行つて委員會意見を決定したいと云ふに一致したも